

## 駿河はなぜ「するが」と読むのか

地名は奈良時代より前から漢字の音や訓を使って表されてきました。駿河も珠流河や須留可と書かれることがありました。ところが、和銅6年(713年)に「諸国郡郷名著好字令」という法律が出されて地名の表記が規制されるようになりました。律令の施行細則である延喜式(927年)に「凡諸国部内郡里等名 並用二字 必取嘉名」とその内容が記載され、漢字二字の嘉字を使うことが規定されています。現在も残っている古代地名の多くはこのときの表記によるものです。

本題に入る前に、この表記法の特徴を見てみたいと思います。幸い930年代にできた辞書『和名類聚抄』に国・郡・郷名のリストがあり万葉仮名でフリガナが付けてあります。また927年になる『延喜式』に二千八百余社の神社名や約四百の宿駅名のリストが片仮名のフリガナ付きで載っています。なお、昔の日本語の読みは旧仮名遣いで表記し、濁点は必要な時以外は付けないことにします。

まず、訓読みによるものとして：河内、山城(元は山背)、淡路、長門、尾張、参河、出羽、陸奥、若狭、鈴鹿など。訓読みで一字で表せるのを二字にするために別字を加えたもの：和泉、大和(元は大倭)、橘樹タチバナ、温泉ユなど。摂津も本来は津であり、後世でもよく「津の国」と呼ばれています。

次に音読み、つまり万葉仮名によるものがあります。その前に、まず中国語の音韻の特徴についてお話しておきたいと思います。古今を通じて一つの音節が声母(頭子音)＋韻母(母音＋末子音)＋声調からなり、頭子音と末子音(韻尾)はゼロのこともあります。韻尾は現在の中国語普通話ではnとŋ だけですが、かつては(少なくとも5世紀以降)k、t、p、ŋ、n、mの6種あり、広東語ではすべて残っており、朝鮮語や越南語の漢字音にも基本的に保存されています。日本の音読みにはk、t、p、nは反映されていますが、mはnに合流しました。陰陽オムヤウ→オンミヤウ、三位サンミ(cf. 散位サンニ)、三郎のサブなどにmを識別していた痕跡が残っています。ŋはイまたはウで表されています。正や明などei(漢音)とyau(呉音)の両方の読みがある漢字はŋ音です。また、漢音は唐代の音ですが、当時の長安では頭鼻音m、n、nyなどが濁音を帯びてmb、nd、nzyと発音される傾向があり、それを反映して漢音では馬、男、日などがバ行、ダ行、ジで表記されました。また、昔の日本語にはhに相当する音がなかったため、中国語のhなどはすべてカ行で表されています。また拗音もなかったの、直音と同等に扱われました。

まず簡単なものとして一字一音の簡単なもの：阿波、伊予、土佐、加賀、古志(越)、佐渡、伊豆、伊賀、志摩、飛騨、富士、多摩、伊奈、武庫。この用法を万葉仮名の使い方の上で全音仮名というそうです。拗音を使ったもの：佐久サク、巨摩コマ、武射ムサ、周智スチ、与謝ヨサ、企救キク、玖珠クス。

一音節語を二字にするためにア段の字を加えたものがあります：紀伊(木)キ、基肆；井伊(井)キ、渭伊；斐伊(樋)ヒ、毘伊、肥伊；都宇(津)ツ、由宇(湯)ユ、顛娃エ、弟翳セ、噲啞(曾)ソ、都啞ト、呼啞(雄)ヲ、宝飫(穂)ホ(後に宝飯ホイ)。振り仮名では短音になっていますが、一部の単音節語を長めに発音する現在の関西方言と同様に伸ばす傾向があったのかもしれませんが。鹿児島県東北部の噲啞ソは熊襲の襲ではないか(熊は熊本県南部の球磨)という説があります。意宇オウ、閉伊ヘイも母音字が連続しており短音の可能性があります。

頭の一音節だけ採ったもの：安房、能登、美濃、隠岐、吉備、周防スハ(後にスハウ)、甘楽カラ(後にカンラ)、遠賀(崗)ヲカ、養父ヤフ、養耆(八木)ヤキ。この用法を略音仮名というそうです。甲斐カヒkap-piでは一字目の韻尾が-pで二字目の頭子音も同じくp-です。もちろん促音ではなく、次音節の口の準備をしておくと言うことでしょう。益救(屋久)ヤクyak-kyuや印南イナミin-nam、香具山kan-ju、託基(多紀)tak-kiも同じつながりです。こちらの用法は連合仮名と呼ばれますが、既に稲荷山鉄剣銘文で、獲加 ywek-ka多支鹵(稚武)ワカタケル大王や～獲居(別)ワケ ywek-kijiに使われているとのこと。cf. 釈迦シャカshak-kya、南無ナムnam-mu。

漢字一字から韻尾も含めて2音節を採ったものもあります：筑波ツクハ、薩摩サツマ、甲賀カフカ。これはウ段なので分かりやすいのですが、筑摩ツカマ、都筑ツツキなど他の母音が付くものもあります。この用法を二合仮名というそうですが、以下に行ごとに例を挙げます。この用法も既に稲荷山鉄剣銘文で使われているそうです：足尼スクネ。

第2音節がカ行、タ行、ハ行の言葉は-k、-t、-pの漢字で表されます。-pの字は旧仮名遣いで見ないとわかりません。

-k 各務カカミ、各羅(加唐)カカラ、安積(阿尺)アサカ、尺度(坂戸)サカト、託羅タカラ、博多ハカタ、伯太ハカタ、色麻シカマ、飾磨シカマ、安宿アスカ、筑摩(束間)ツカマ、伊作イサク、託麻タクマ、菊池ククチ、佐伯サヘキ、伊福部(五百木部、廬城部)イホキベ。益頭は元はヤキツと読んだのですが、後にマシヅと読むようになりました。焼津の町は旧益頭郡にあります。渥美(飽海)アツミはアクミの音が後に変化したようです。

-t 達良タタラ、設楽シタラ、忽美クタミ、安達アタチ、志イチシ、秩父チチフ、綴喜ツツキ、伊達イタテ、益必(宅人)ヤケヒト、物理モトロキ。

-p 合志カハシ、甲良カハラ、蘇甲(十河)ソカハ、雑太サハタ、邑楽オハラキ、雑賀サヒカ、揖保イヒホ>イボ、給黎キヒレ、甲賀(鹿深)カフカ、甲知(河内)カフチ、匝瑳サフサ、答志タフシ、法美ハフミ、揖宿イフスキ、知立チリフ、邑知(大内)オフチ、邑美オフミ、邑久(大伯)オホク。

-n、-m、-ŋ音の漢字は、第2音節がマ行、ナ行、ガ行の言葉を表します。新しい規則に従って地名の漢字を定めた人達が漢字音の性質をよく知っていたことは驚きです。-mは旧仮名遣いでも出てこず、当時の中国語の音を知っていないとわからないはずです。-ŋ音も読みではイ、ウとなり表に出てこないのが気づきにくいものです。

-n 引佐イナサ、因幡イナハ、員弁イナヘ、信濃シナノ、雲梯ウナテ、丹波タニハ、難波ナニハ、半布ハニフ、印旛イニハ、乙訓オトクニ、遠敷ヲニフ、讚岐サヌキ、讚馬(佐沼)サヌマ、信夫シノフ、民太ミノタ。

-m 奄美アマミ、伊参イサマ、男信ナマシナ、玖潭クタミ、志談シタミ、美談ミタミ、印南イナミ、夷瀧(夷隅)イシミ、志染シシミ、美含ミクミ、安曇アツミ、伊甘イカム、淡気(手向)タムケ、塩冶ヤムヤ、紺口コムク、品陀(誉田)ホムタ、品治ホムチ、恵曇エトモ。

-ŋ 英多アガタ、香美カガミ、相模サガム>サガミ、相良サガラ、相楽サガラカ、当麻タギマ>タイマ、美囊ミナギ、久良(久良岐)クラギ、餘綾ヨロギ>ユルギ、望陀(馬來田)マグタ、鳳至フゲシ、伊香イカゴ。cf. 双六スゴロク。

ヤ行、ワ行には-i、-uで終わる漢字が使われました。

-y 拝師(林)ハヤシ、愛甲(鮎川)アユカハ、愛知(年魚市)アユチ。

-w 考羅(伽和羅)カワラ、早良サワラ。

残るのがラ行と濁音です。音読みと思われる地名で語中や語末にこれらの音を含む言葉を探してみると、以下のようなものがありました。つまり-nの語で表されていました。d や r は有声の舌音で発音位置が n と近いものです。

-n 讚良(娑羅羅)サララ、播磨(針間)ハリマ、平群ヘクリ、群馬(車)クルマ、訓覇クルヘ、駿河スルカ、敦賀(角鹿)ツルカ。cf. 達磨ダルマ。

-n 但馬(多遲摩)タヂマ、丹比(多治比)タヂヒ。

サ行は武蔵と対馬くらいしか見つかりませんが、-ŋ や -i で表すのは無理があります(ハングルやタイ文字で音節末子音の s 字や ts 字を t と発音するように、-t で表すなら納得できるのですが)。武蔵にはムサシ(牟志・无謝志)とムザシ(牟射志、无邪志、无耶志)の二つの読みがあります。(律令制より前の国造のリストが『先代旧事本紀』の「国造本紀」に載っていますが、武蔵国に相当する部分に知々夫国造に加えて无邪志国造と胸刺国造が別の国として載っており、その初代が親子関係にある別人になっています。この二つが同一のものか別のものかについてはまだ決着がついていませんが、音韻面から見るとムナサシからムザシが派生したとするのが妥当です。余談ですが、賀茂真淵は毛野国や総国と同様に身狭国という国があって、ムサカミとムサシモの二つに分かれて相模と武蔵になったという面白い説を立てています。)

その他、伯耆ハハキ>ハウキ、相馬サウマ、信楽シガラキ、泊瀬(初瀬)ハツセ、養訓ヤマクニ、賀集カシヲなども音がずれています。時代はずっと下りますが、伊丹イタミも同様です。

この他、漢字2字を並べる中で音と訓を混ぜた重箱読みや湯桶読みになっているものがあります。可児カコ(後にカニ)、亙理ワタリ、登米トヨネ(後にトヨマ)。

また2字で表しきれずに一部の音を表記しないで済ませているものも多数あります。美作ミマサカ、知夫(知夫里)チフリ、安八(安八磨)アハチマ、勝田(勝間田)カツマタ、上野(上毛野)、葛下(葛城下)、上毛(上三毛)カミツミケ、下座(下朝倉)シモツアサクラ、春部(春日部)カスカヘ、八部(八田部)ヤタヘ、安宿(安宿部)アスカヘ、宗部(宗我部)ソカヘ。

伝統地名の音読みの表記法はほぼこのようなものでした。なお、この問題は、本居宣長が1800年刊『地名字

音転用例』で扱っています。

こうした読みが現在も保存されていることもあります、音便により音変化したものもあれば、後代に読みが普通の音読みに変わってしまったものも沢山あります。